

## 平成22年度 第1回 北広島市環境審議会 議事概要

1 日 時 平成22年7月5日(月)午後6時30分～

2 場 所 市役所 本庁舎 2階会議室

3 出席者 委員：五十嵐恒夫会長・中村洋副会長・村野紀雄委員  
・上田純治委員・澤田美恵子委員・松原幸雄委員  
・山北雅宏委員・佐藤清一委員・長谷川眞知子委員  
北広島市：川原市民環境部長、小西課長、柳主査、平澤主査、  
阿部主査、高橋主事

4 配布資料 (事前配布)  
○ 議案書

### 5 会議内容

・説明事項(環境基本計画・現在の計画)について事務局から説明

(委員)現在の計画の10年間の評価、点検はされているのか。

(事務局)環境関連の事業については、市の各課から環境に関する施策の実施状況報告をとりまとめ、毎年「北広島のかんきょう」の冊子に掲載している。現在、10年間の総まとめ的な調査、点検を関係各課に照会している。

(委員)いかにしてもっとたくさんの方が環境問題に関わりを持てるようにできるかが問題。私もこのような会に出て関心を持つようになったので、他の人もこういう機会があれば、みんなが環境問題に取り組んでいけるのではないかと考えている。

(事務局)啓発事業を実施していると思うのは、大人に事業に参加してもらうのは非常に難しいということ。どうやって来ていただくか、話しを聞いていただくか、実際に参加していただけるか、非常に難しい。

(委員)人づくりが大事ということだが、どう人をつくって、どう市民に周知して根付かせていくのか。色々な事業をしようとする時、メリットがあるような企画を考えると少しは人が集まるが、みんなが関心を持って、環境問題に取り組んでいくというのはなかなか難しい。

参加しなくても、自分は知っているから、きちんと分かっているからという自負がある。

また、団塊の世代が退職する時代で、みんなまだ若々しいのだが、男性が退職して

家庭に入ると生き生きしていない。如何にして男性が街づくりに参加していただけるかを考えていくべき。

(会長) なんでもそうだが、第1回目に参加するということが大変難しい。1回来てその時に魅力的なことがわかれば2回、3回、と続けて来てもらえると思う。環境ひろばはどうか。数値的なものは押さえているか。

(主査) 700名が参加した。

(委員) 学校も巻き込んで、標語とかポスターで子供達に参加してもらい、非常に良い事業だと思う。

それを大人の市民の人にも、・・・というのがなかなか難しい。

(委員) 環境ひろばでは、いろいろな環境のマークだとか、環境にやさしいエコクッキングとか、色々な催し物を実施し、参加業者などから、そして色々な遊びの中などから環境のことを学べるようになっている。

そういういいところがあって、定着してきているのだと思う。

(会長) いろいろと大変な事があるが、多くの人に参加してもらえるように、努力していく必要がある。この計画のなかにも市民を育てることが書いているので、そういう努力をしなくてはいけない。

(委員) 親子で標語に応募するなどすると、大人も参加できるようになるのではないか。

・ 審議事項（第2次環境基本計画の策定）について事務局から説明

(委員) アンケートは一斉に無作為に地域を分けて行ったのか。

(事務局) アンケート1000通については、20歳以上の北広島市民を対象に無作為で抽出して実施した。

(委員) パブリックコメントだが、2月には市民と環境関係団体等にも最終的にかかるということか。

(事務局) 市民向けのパブリックコメントの時点で、環境関係の団体、ご意見を頂けるかどうかお願いをしていきたいと考えている。

(委員) 是非お願いしたいと思う。

(委員) 要望になるが、できるだけ数値化することを目指してほしい。過去に10年間、良くなっているものもたくさんあると思うが、そうではないものもあるかもしれない。良くなっていないところも、後退しているところも、ざっくばらんに出してほしい。

それと、諮問答申はどうなっているか。

また、環境審議会で環境に関する事を話していくが、環境の分野には緑とか自然、生活環境的なものなどと色々あるが、そういった所をしっかり見るためには、場合によっては専門の人を呼んで、意見を聞くような機会を設けてほしい。審議会として専門委員を設定するという事は会長が出来ると思う。

(事務局) 現在の環境基本計画は、数値目標がない。環境基本計画を持っているのは全道の市で半分くらいだが、最近のものは指標がある。ただ市町村によってかなり違いがある。これからは、指標は必要だと考えているので、出来る部分については設定していこうと思う。

古い部分について評価の数値化を、という意見があったが、事業量等で分かるものは書いていくということで調査をしているが、そもそもの数値目標がないため、その達成度を数値化することは難しい状況である。一部を実施した、とか実施していない、とかそのような区分にならざるを得ない。

(委員) それは分かるが、例えば、緑関係なら緑被率とか、街路樹の本数はどうであるかなど、市民が見て分かるような数値を挙げて、やれるものはやっていくという姿勢を持って頂きたいということ。先ほどの大気とか水質などのものは具体的に直ぐ出てくるであろうし、そういうものは出して頂きたい。

(事務局) 今申し上げたとおり、現在の計画には数値目標はない。村野委員の言うとおり、例えば大気汚染とか水質汚濁などは数字で出てくるので、10年間でどうなったのか、また、緑化でもどの程度、例えば公園の緑化が進んだのか、街路樹の整備がどの程度進んでいるのか、数字で評価していきたいと思う。

(事務局) 諮問と答申についてだが、市民に参加して頂く会議は環境審議委員以外予定していない。2回目に予定している8月の会議では、原案が出来前であるので、市民の立場から、諮問答申ではなく、皆さんからいろいろとご意見をいただきたい。諮問答申は、原案が出来た時点で皆さんに諮問し、それに対して意見をつけて、答申と考えている。そのような方向で検討していきたい。

(委員) 通常では、原案があって、それに対して、中身を検討して意見を、いうというのがすっきりした形である。

このやり方だと事実上原案作成者になっているので疑問もある。

ただし、作成の段階で関わっていくということで、意見などを反映させていくことが出来るというのはいいとも思う。

(委員) 地域の住民から、夜に子供達が集まっているのが住宅街から見えないなどということで、公園に木を植えないでほしいとの意見がある。

街路樹も交通の妨げになるとの声があり、緑化も地域の住民の生活を重視しながら進めていかないと大きな問題になると思っている。

自分の町内でも、桜がきれいだからずっと道路に植えようと考えた人がいたが、見通しが悪くなるので駄目だということになった。

植えるのはいいが、伐採することは簡単には出来なくて大きな問題になる。

また、最初のパブリックコメントの実施の話なのだが、環境関連の団体は関心を持って行動している。

市民の生の声を聞く、北広島の環境について考える、そういうディスカッション形式の事業などは難しいのか。エコパートナーなどの、生の声を聞けるといいと思う。

(委員) 木が大きくなって、防犯上の問題が出てくるというのは、全国的な問題。そのバランスは考える必要があると思う。街路樹が多ければいいというわけではないが、緑量の数値化など、きちんと考えていけばよい。あと、生物多様性という問題もあるのでそういうことも含めて、進めていく必要がある。

(会長) 木の問題は、成長に応じて下枝を刈り払い、見通せるようにしていくということで問題を解決することもあると思う。植えっぱなしというのは、本当によくはないと思う。

(委員) アンケートは無記名か。

(事務局) 無記名である。

(事務局) 市民の意見を聞く機会は大事だと考えているので、環境団体と話をする、意見を聞くということを考えていきたいと思う。

(委員)

エコパートナーの会長がここにいるので、是非検討してほしいと思う。

(委員) 推進のツールとして、ディスカッションとか、色んな委員会、文化会、教育会を山のように入れていくといいと思う。

環境審議会も、例えば審議会の委員を1万人くらいにしたらみんなの認識が高まるだろうと思う。いろんな協議会、文化会、委員会をたくさん作り、たくさん的人数をそこに関わらせることによって意識を高めていく。

私もこの委員になって、知ったこともあり、意識も芽生えている。

(委員) 審議会についてであるが、会長には審議会だけではなくて、市民とのイベン

トの中で、専門の環境の先生として市民の対話の中に入って、意見を聞いても頂きたいし、皆さんに話しても頂きたいと思う。ここだけではもったいない。そして去年、環境開発という会社が地元にあったことを知り、そして副会長が社長で、そういう方がこの委員にいたということで、本当にびっくりした。

是非表に出てもらって、こういう事業をしているということを言ってもらいたい。

(事務局) 副会長が社長だった環境開発には、今年環境ひろばで参加いただいている。

(会長) 諮問があって、審議して、答申をするというのが、審議会のひとつの形だが、この場では我々が日頃考えていることを反映させることができる。そういう形で進めて最終段階までまとめ、必要ならば諮問、答申の形をとるということでどうか。

(委員) 審議会は、諮問を受けて行うというものだから、形としてはおかしい。形は、出来るだけ早めに整えるべき。

(事務局) 皆さんのおっしゃった諮問と答申について、こちらでも迷ったところがあったが、今回としては早い段階からご意見をいただき、まとめていくという形がいいのではないかとということで、提案させていただいた次第だ。

(会長) 当面こういう形で進めてはどうか。最終的にそういう形が必要になったら、諮問答申の形をとることは出来る。

(委員) 手元にあるのはダイジェストだが、本体の方を来年度までに作成するということか。

(事務局) 今年度中、来年3月までに作成することになる。

(委員) 全部検討すると、大変な作業だと思う。専門家にはわかるが、ざっとみたところ非常に優等生的にたくさん書かれていて、一般市民の方が見ても分からないという感じがした。生物多様性と言ってもほとんどの方がたぶん分からない。一般の人には、もっと具体的な例を書いた方がいいと思う。ネットワークづくりと言っても、実際どういうことをやろうとしているのか、もう少し具体的に作った方がいいと思う。

(会長) この計画はある意味では良くできている。幅広い分野を網羅している。問題は計画がはたしてどこまでやれたのか。場合によっては、終わったものもあるのでは。実際作業が始まっているので、その中でできるだけ数値化していくべき。

(事務局) この計画が立派だとおほめの言葉をいただいたが。大事なのは計画を作ることではなくて、できた計画をどう実行していくか。計画はあくまで手段。

きれい事だけを並べるのではなく、実際にどうするのかをイメージとして作っていくのが大事と考えている。また数値目標も出来るだけ数値を挙げることで、市民の皆さんにとっても非常に分かりやすくなるが、中身によっては数値化ができないものも出てくるのかなと考えている。

(委員) 10年前、計画を作っていた時、北広島の自然環境調査をモニタリング的に実施してほしいということを審議会から要望して、途中段階で資料を見せてもらったこともあるが、それは継続が必要で、本当は今回計画を作るうえで、現状が把握されていることが必要。どんな動植物が外来種を含めて、どれだけ出現し消滅していったかで、今後の対応が出来る。数値化は将来に向けて目標を立てる時に必要な事。今回の策定にあたっては、資料としてこれまで実施した調査を見せてほしい。

(事務局) 12年前、環境の調査を行っている。動植物に関して、また、化学物質とか、大気汚染関係もかなりの金額をかけて、全市的に実施している。その後については、全市にわたる調査は出来ていない。継続的にやっている小さな調査はあるが、全市的な調査は残念ながら、出来てない状況なので、現時点では出すことができない。

(委員) 外来動物がものすごく問題になっている。北広島は外来種のトノサマガエルが最初に発見された地域。今、野幌森林公園では、ツチガエルが侵入してきている。ツチガエルはもともとこの地域にはいなかったもの。因果関係は分からないが、地域の生態系が変化してきて北広島の自然を変えてきてしまうということを、上手く題材に出していくといいと思う。多様性の問題でも使えると思う。環境教育に使いやすいと思う。

(事務局) 有るものに関しては出していきたいと思う。

(その他の意見等がないことを確認して終了)